

行^キ行^キ重^テ行^キ行^ク
古詩十九首

行^キ行^キ重^テ行^キ行^ク与^ト君^{キナガラ}生^ス別^ス離^ス

相^ル去^{コト}万^{コト}余^{コト}里^{コト}各^{おのおの}在^リ天^ノ一^{いち}涯^{がい}

道^ケ路^{シクツ}阻^シ且^シ長^シ会^ク面^{ソケン}安^ル可^ル知^ル

胡^コ馬^ハ依^{ヨリ}北^ニ風^ニ越^ハ鳥^{クフ}巢^ニ南^ニ枝^ニ

相^ル去^{コト}日^ニ已^{オデ}遠^ク衣^ク帶^ニ日^ニ已^ニ緩^シ

浮^ウ雲^ニ蔽^{おほ}白^ニ日^ヲ遊^{イウ}子^シ不^レ顧^ミ返^ル

思^ヘ君^ヲ令^{シム}人^ヲ老^{シテイ}歲^ニ月^ニ忽^{たちまち}已^ニ晚^く

棄^キ捐^ル勿^レ復^タ道^{イフコト}努^シ力^テ加^ヘ餐^ニ飯^{ばん}

(文選)

【書き下し文】

行き行きて重ねて行き行く
君と生きながら別離す
相去ること万余里
各天の一涯に在り
道路 阻しく且つ長し
会面 安くんぞ知るべけん
胡馬は北風に依り
越鳥は南枝に巢くふ
相去ること日に已に遠く
衣帯日に已に緩し
浮雲 白日を蔽ひ
遊子返るを顧みず
君を思へば人をして老いしむ
歲月 忽ち已に晚れぬ
棄捐せらるるも復た道ふこと勿からん
努力して餐飯を加へよ

【口語訳】

あなたは行き行き、また行き行く

あなたは行き行き、また行き行く、
私はあなたと生き別れをしてしまった。
今すでにおたがいは一万里余もへだたり、
それぞれが天の一方に、離ればなれになってしまった。
二人を隔てる道は、険しくそのうえ遠い、
再び会えることなどどうしてわかろう。
胡地出身の馬は、北から吹いてくる風に身を寄せるし、
越から来た鳥は、南の枝に巢を作る（こことく故郷を懐かしむ）。
おたがいの距離は、日増しに遠くなり、

私の身は痩せ細り、衣服も帯も日ごとにゆるくなる。

空に漂う雲が太陽を覆い隠し、

あなたは私を振り返ろうとしない。

あなたのことを考えていると、私を老けこませてしまう、

歳月は忽ちのうちに過ぎ去り、今年ももう暮れてしまう。

打ち棄てられたと言って、もう嘆くことはやめましょう、

どうか、ご飯をたくさん食べて体を大切にしてください。